



対談のコーディネーター
市子ども・子育て総合センター
菊池 紀男 所長

市教育委員会
大宮司 敏夫 教育長

深刻化する虐待 現状×対策

本市で虐待の対応にあたっている市子ども・子育て総合センターと県北児童相談所。地域の実情を熟知している民生委員・児童委員。そして、本市の教育をつかさどる教育委員会。それぞれのトップが市内の現状と対策について話し合った。



県北児童相談所
直井 茂 所長

市民生委員児童委員
協議会連合会
大森 利男 会長

県北児童相談所
直井 茂 所長 Shigeru Naoi



増加する虐待 対応の難しさ
菊池 児童相談所への虐待の相談件数はどのような状況ですか。

直井 年を追うごとに件数は右肩上がりです。リスクの高い事案の対応に取り組んでいる状況です。

大宮司 教育委員会定例会への虐待の報告も増え続け、耳を疑うような事案も多くあり、状況は深刻さを増していると感じています。

大森 近所で深夜に子どもが泣いている、と民生委員にも連絡があります。難しいのは、ただの夜泣きと虐待を判別する手立てがないこと。訪問をしても「誰がそんなことを言っているんだ」と近所で対立しかねません。

菊池 現場の民生委員から通報をもらうケースはあります。我々も現場に行って調査し、注意喚起する。重篤な場合には児童相談所に対応を願います。一方で、地域で虐待が見えにくいこともあるのかと思います。

大森 子どもがSOSを出してくれないんですね。子どもは「自分に結び付けるか。子育ての一義的責任は親にあることは忘れてはいけません、支援の充実は必要です。」

大森 高齢者の生活支援は充実している気がしますが、子育て世代への支援はありますか。

菊池 家庭を訪問しての育児・家事援助は限定的にありましたが、NPOによる新たな家事支援(PPO)の取り組みが11月から始まる予定です。

直井 虐待対策は対処療法に終始しがちなので、そうした支援は本当に有効だと思えます。また、市内に2か所ある居場所づくり(居場所)の取り組みも重要です。宿題をみてもらったり、ご飯を食べたり、お風呂に入ったという当たり前の体験が、子どもの育ち、自立に重

が悪いから、しょうがない」と思い、隠しているのでしょうか。私もそう痛感する現場に遭遇しました。

求められる支援の充実
菊池 虐待は深刻化する前の早期対応が重要です。教育現場ではどんな取り組みが可能でしょうか。

大宮司 学校には早期発見と通告を徹底させています。核家族化が進み、育児のノウハウが継承されにくい現在。親の不安を受け止め、育児の素晴らしさを伝える機会を増やすことも一つの対策だと思います。長期的な視野で、妊娠から出産、育児を一貫して支援する体制(参照)が重要だと考えています。

直井 支援が点でなく、線となれば素晴らしいですね。また、昔の近所付き合いでは「昨日どうしたの？」という会話や、子育ての悩みを相談する機会がありました。子ども・子育て総合センターに相談することもできますが、地域でできるもう少し別のアプローチもあると良いのですが。

大森 地域では近所のつながりを強くしよう、「見守り隊」結成の動きが広まっています。近所に関心

要な影響を与えます。

背景には貧困の問題も

大森 地域の現状をみると、経済的な困窮も背景にある気がします。一生懸命働いても生活が改善せず、時間的にも余裕がなくストレスが蓄積する状況だと思います。

菊池 いわゆる「子どもの貧困」問題ですね。全国調査では子どもの貧困率は13・9%となっており、割合だけで考えると1クラスに4〜5人はいる計算です。市内では、どのような状況でしょうか。

大宮司 年々、本市でも割合が増え、貧困の度合いも進行していると感じます。その子たちが学ぶ環境を整えるため、小中学校入学前に交付する「新入学準備金」を含めた就学援助や奨学金の制度の充実などに取り組んでいます。

歯を磨いたり、お風呂に入ったり。当たり前を体験させる事が重要——

直井 貧困の継続は、子どもの成長へのダメージが極めて大きい。特に情緒的な成長が阻害され、自己肯定感が低かったり、対人関係が結ばなかったり。経済的な

地域のつながりを強化し、虐待の防止につなげたい——

をもって、家族構成なども分かっていたら、万が一の時に手を差し伸べられる。つながりが強くなれば、虐待も防げると思います。

菊池 見守り隊などの活動で地域のつながりを強化。さらに、児童相談所と行政が協力し、妊娠から育児まで一貫して支援し、虐待を防ぐことが大切ということですね。

大宮司 親が一日働いて帰宅後、家事をこなし、子どもの面倒をみる。その精神的に余裕が無いことが原因となることも多いと思います。その前にいかに周りで支え、支援

貧困が「心の貧困」に繋がることが強く懸念しています。

大森 我々もその問題に対処したいのですが、貧困も外から見えにくく、なかなか情報が得られません。情報を学校などの関係機関と共有できる仕組みがあると良いのですが。

大宮司 今年からスクールソーシャルワーカーを増やしました。今後は民生委員・児童委員などと協力し、子ども一人一人に対応していくことが理想です。子どもの貧困は、子どもたちには何の責任もありません。どの子にも等しく未来はあります。大人が手を差し伸べ、その子の未来を守ってあげなければならぬと思います。



市教育委員会
大宮司 敏夫 教育長
Toshio Daiguji



市民生委員児童委員
協議会連合会
大森 利男 会長
Toshio Omori